

令和3年度 第2回吹田市小学校給食調理等業務委託事業者選定委員会 議事録

1 日時

令和3年6月8日(火) 午前9時35分～午後4時30分

2 場所

吹田さんくす3番館 4階 大会議室

3 出席委員

委員長 吹田市立小学校校長
副委員長 公認会計士
委員 吹田市PTA協議会代表者
吹田市立小学校教頭
吹田市立小学校栄養教諭

4 次第

- (1) 財務関係説明
- (2) プレゼンテーション (8事業者)
- (3) 評価点集計
- (4) 協議 (事業者選定)

5 議事概要

以下のとおり

○**委員長** これより第2回吹田市小学校給食調理等業務委託事業者選定委員会を開催する。
本日のスケジュールの流れについて事務局に説明を求める。

○**事務局** まず、参加事業者数と選考方式について説明する。今回吹田市小学校給食調理等業務委託事業者選定に応募した事業者は9者であり、辞退した事業者が1者あったため、本日のプロポーザル参加事業者は8者となっている。

次に選考方式について説明する。各事業者のプレゼンテーションの時間は、提案説明が

15分、質疑応答が15分の合計30分間である。委員は事業者からの提案説明後、提案説明や提案書の内容についての質疑を事業者に対して行うことになる。

それぞれの事業者のプレゼンテーション開始前に事務局より評価基準書を配付する。質疑応答が終了次第、評価基準書に点数の記入をお願いする。

事業者の評価についてだが、第1回事業者選定委員会において、プロポーザルの際に評価の基準となるものを提示することになっていた。「評価基準書の配点基準」という書類を配付しているので評価の際の参考にさせていただきたい。

評価基準書の評価項目のうち「小学校給食受託実績」の①～③及び「職員配置」の①～④と⑥については、あらかじめ事務局で内容を確認し、点数化している。

なお、「職員配置」の⑤アレルギー除去食等個別対応の人員については提案書等に記載がないため、調理対応の食物アレルギー除去食の項目とともに審査し、点数を記入することとなる。

また、「企業の財務状況」については、あらかじめ公認会計士がそれぞれの事業者の評価を点数化している。

これらの点数を8者のプレゼンテーション終了後に委員に提示するので、それを参考にして評価基準書への記入をお願いする。

次に、評価基準書に記入した点数を採点表に転記をお願いする。

ただし、C者のみ従事者の学校給食経験年数が特定給食施設の経験年数と記載年数が同じであり、それぞれ別の経験をされてきているのか否かで配点が変わってくる。提案書からは読み取れないので、質疑応答時に委員より質問をお願いする。

委員の採点後、採点表を事務局が回収し、点数の集計作業を行う。委員全員の評価点から価格点を除いた合計点数が6割以上であることが採択の対象である。

そのため、価格点に当たる「提案金額」の点数(20点)を評価点の合計(140点)から差し引いた点数(120点)が1名分の点数となる。そこから5名分を乗じた合計点数(600点)の6割は360点となり、360点以上が採択の対象となる。

○**委員長** 今の説明について、質問はあるか。

(発言なし)

プレゼンテーションに先立ち、決算関係書類の説明を副委員長にお願いする。

○**副委員長** 各者の財務状況について説明をする。

まずA者は、貸借対照表を見ると純資産の部で金額が6億8,300万円、その他の資本剰

余金が4億3,300万円である。このことから前の会社から分社をし、給食事業だけを単独で行っていると推測される。また損益計算書を見ると売上げが38億円に対して当期純利益が1億円と一般的な大企業並みである。

B者は貸借対照表の関係会社未払金が3億4,700万円とあり内容が不明である。また、昭和に創業しているが、最新の決算が第12期のため、分社を行った可能性がある。純資産に関して資本剰余金が4億2,100万円、資本金が5,000万円であり、分社前の会社の利益を持ち越している。

C者は今回の決算で第59期である。貸借対照表を見ると関係会社貸付金として33億円を関係会社に貸付をしている。純資産を除いた合計資本金が10億円と大きく、余裕のある会社である。

D者は14年経営していて純資産が8,600万円となっており、他者との比較では経営年数から見ると少ない。

E者は貸借対照表を見ると資本金が9,000万円、純資産が1億9,400万円であり内部留保が少ない。特徴としては、賞与の引当金が1億1,551万円と記載されている点である。また、損益計算書の売上高が33億円に対し、利益が4,739万円と少ない。個別注記表より、配当金として1,580万円を株主に支払っているからであると推測される。

F者は貸借対照表を見ると純資産が80億円、当期純利益が22億円であり、優秀な会社である。

G者は貸借対照表を見ると17億8,000万円の純資産がある。また、損益計算書では51億円の売上げがあり、9,700万円の利益を上げている。

H者は貸借対照表を見ると純資産が33億円ある。また、損益計算書では273億円の売上に対して7億6,000万円の利益を出している。気になる点は貸借対照表において短期貸付金が約30億円あるが、内容が不明である。

各者の財務状況についての説明は以上である。

○委員長 財務状況の説明について、質問はあるか。

(発言なし)

次に、プレゼンテーションに移る。

○OA者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

○委員 人員配置について、責任者、副責任者に欠員が生じた場合、どのような対処を取るのか。また、その手配はA者が行うのか。

○A者 すべて弊社の判断で近隣受託施設及び関西支店の業務責任者経験のあるものを施設に急行させる。

○副委員長 今回の決算書が第4期であることが疑問である。説明を求める。

○A者 学校給食部門を事業継承という形で分社化した。

○副委員長 分社前の親会社はいつから経営しているのか。

○A者 昭和35年から70年近く続いている。

○委員 雇用時間は学校行事等や献立に合わせて流動的に変えることができるか。

○A者 現場状況に応じて勤務開始時間や作業時間は柔軟に対応する。

○委員 人員配置について、現場責任者の異動の間隔はどの程度か。

○A者 本人のスキルアップを考え、3年から5年を考えている。

○委員 アレルギー除去食について、専任制とするのか。

○A者 副業務責任者を専用の人員として設ける。だが、学習のために特定の調理員にもアレルギー除去食への対応をさせる。

○委員 保護者や地域の方たちとどのように交流を図っているのか。

○A者 他市では保護者への啓発活動に加え、年に1回弊社、教育委員会、学校長、PTA

会長を交えた交流の場を用意している。

○委員 給食試食会は実施するつもりはないのか。

○A者 吹田市が企画立案をするのであれば協力したい。

○委員 これまでに様々な事故があったと思うが、発生時の対応方法や失敗を活かした新しい取組などはあるか。

○A者 初めに現場から会社の担当者へ第一報が入り、そこから学校の職員と共に対応を決めていく。その後は改善案を現場責任者や従業員と検討して報告書を学校に提出する。これらの情報を全国の事業所とリアルタイムで共有する。また、新しく行動を変えたこととして、現場に合わせてチェックリストを改善する等を行った。



○B者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

○委員 人員配置について、現場責任者の異動の間隔はどの程度か。

○B者 特段の定めはないが、学校長や栄養士と相談のもと3年から5年を目途に異動している。

○委員 雇用時間は学校行事等や献立に合わせて流動的に変えることができるか。

○B者 現場状況に応じて流動的に対処する。

○委員 新人研修をするために外部の指導者をどの期間呼ぶのか。

○B者 2か月から3か月ほど、外部の調理指導員を派遣するが、現場の状況を見て調整し、安定しないと判断すれば、半年以上派遣することもある。

○副委員長 第12期の貸借対照表について資本剰余金4億2,100万円とあるが説明を求める。

○B者 親会社から給食事業が分社した経緯があり、親会社との資本の関係であると推測する。

○委員 保護者や地域の方たちとどのように交流を図っているのか。

○B者 他市では長期の休み期間を利用して料理教室の開催や石鹸づくりの催しなどを行っている。

○委員 アレルギー除去食について、専任制とするのか。

○B者 栄養士が基本的にアレルギーの情報を管理し、栄養士又は責任者が担当する。

○委員 担当マネージャーが定期的な巡回を行うとのことだが、具体的にはどの頻度か。

○B者 少なくとも月に1回巡回を行い、委託当初は毎日巡回する。

○委員 実際に起こった事故に対してどういった対応をとったか。また、どのように次に活かしているか。

○B者 事故が起こった際には改善案を全国的に共有している。ほかの現場で起こった内容も自分の現場で起こったものとして現場ごとに改善案を立てて報告している。また、報告書は学校用と社内用の二つ作成している。社内用は役員が内容を確認し、提出された対応策に疑問が残るようであれば差戻しなどを行っている。



○C者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

- 委員 人員配置について、提案書では各従業員の学校給食経験年数と特定給食施設等経験年数が全て一致しているが、これは学校での経験とは別にほかの施設でも経験をされてきたという認識でよいか。
- C者 学校給食経験と特定給食施設等経験を同一として捉えている。別の経験ではなく、学校給食経験年数である。
- 委員 調理経験が1年である調理員は全て募集ということになっている。経験者を今から募集するのか。
- C者 提案が採用されたら、直ちに募集する。現在、学校給食に従事している者を優先的に採用する。
- 委員 雇用時間は学校行事等や献立に合わせて流動的に変えることができるか。
- C者 試算の段階では記載のとおり時間を適用するが、実際に勤務する場合は流動的な時間配分を考えている。
- 委員 人員配置について、現場責任者の異動の間隔はどの程度か。
- C者 3年から5年を考えている。同じ職場で長く働くメリットもあるが、怠慢につながることもあるので、定期的に異動を行うことを考えている。
- 委員 ある献立で食べ残しが多く発生したらどういった対応をとるのか。
- C者 調理方法等を栄養教諭と協議し、食材の切り方や調理時間を工夫する等、対応する。
- 副委員長 貸借対照表の関係会社貸付金 33 億円について説明を求める。
- C者 親会社との資金のやり取りであると推測する。

○委員 保護者や地域住民とどのように交流を図っているのか。

○C者 他市では催しごとにブースを設置し、保護者や児童を対象とした食育に関する授業を行った。また、保健所の許可を得て試食会も行った。

○委員 募集による配置が多いが、未経験の調理員に対してどのような研修を行うのか。

○C者 OJTにより指導する。

○委員 アレルギー除去食について、専任制とするのか。

○C者 責任者、副責任者に任せる。ただ、事前のミーティングで情報共有を行い全員が作業に当たっていきける体制をつくる。



○D者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

○委員 人員配置について、現場責任者の異動の間隔はどの程度か。

○D者 3番手として配置している者が成長したら、副責任者を任せる等、他の職員に経験を積ませて、全体のレベルアップを図る。急に異動させることはない。

○委員 吹田市で未経験の調理員に対してどのような研修を行うのか。

○D者 吹田市への配属の前に他校での経験を積ませ、学校給食についての理解を深める。

○委員 雇用時間は学校行事等や献立に合わせて流動的に変えることができるか。

○D者 可能である。

○委員 D者が今までに経験した支援学校でのノウハウを吹田市での業務にどのように活かしていくのか。

○D者 アレルギー対応食専門の人員を確保することによって通常の給食を作りながら並行してアレルギー食を作ることができる。また、アレルギー食に関する知識を研修を通して他の調理員に伝えていく。

○委員 D者の強みは何か。

○D者 もともと配送業をしている会社であるため、配送や配膳を一貫して行うことができ、迅速なトラブル対応が可能である。

○委員 保護者や地域住民とどのように交流を図っているのか。

○D者 他市では保護者を対象とした定期的な試食会を開催している。地域に対して何かできないかと考えているが、依頼がないため行っていない。

○委員 アレルギー除去食について、専任制とするのか。

○D者 ローテーションを組んで対応し、一人にしかできない仕事を作らないようにする。

○E者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

○委員 人員配置について、現場責任者の異動の間隔はどの程度か。

○E者 3年から5年周期で考えている。受託自治体に適した人材を配置する。

○委員 研修のために外部から指導員が2週間来るとのことだが期間が短く感じる。2週間で研修は可能か。

○E者 夏休み期間を利用して新規調理員への座学や栄養教諭との事前の打合わせを行う期間を設ける。また、新規調理員の習得度が不十分と判断した場合には、研修期間の延長や別の調理員を配置することを行う。

○委員 雇用時間は学校行事等や献立に合わせて流動的に変えることができるか。

○E者 早出することや学校行事に合わせて勤務開始時間を変更することは可能である。

○委員 E者が行っている食育用アプリは小学生用として児童自身が端末へインストールするものか。

○E者 アプリは大人用として作られたものである。今後の試みとして児童が学校用のタブレット端末から食事内容等を入力してもらい、情報を収集する手段としても使いたい。収集した情報は栄養管理の側面から部活動に活かしたり、保護者に対して児童の栄養管理をサポートするシステムを考えている。

○委員 E者の他者と比べた場合の強みは何か。

○E者 強みは数多くの業務を経験し、お客様ファーストの考えを小学校で活かしていけることである。子供たちへの声掛けや行事の提案をこちらから行う。過去に調理員がクラスを訪問して器具の説明を行ったり、夏休みのイベントで、インド出身の社員がインドカレーを提供したことがある。

○委員 アレルギー除去食について、専任制とするのか。

○E者 重篤な児童がいる場合は専任とする。通常はローテーションを組みながらその日ごとに担当者を決める。全員でアレルギー情報を共有することが大切である。

○委員 学校への巡回では具体的には何をしているのか。

○E者 仕様書の要求水準どおり現場が機能しているか学校側にヒアリングを行うことや

従事者の作業の確認、当初の取決めどおりに運営ができていないか等を確認している。



○F者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

○委員 調理員が運搬する食材等を交差させないとのことだが、具体的にどうするのか。

○F者 事前に作成した工程表により作業内容を確認し、前日にミーティングを行う。

○委員 さらなるサービスの向上を目指すとのことだが、具体的にはどのようなことか。

○F者 全国に事業所があり、全国の献立作成実績がある。それを活用し、新献立作成の協力を行いたい。

○副委員長 長く経営を続けている割に、最新の決算が第7期である。会社分割したのか。

○F者 学校給食の分野に特化するために分社を行った。

○委員 保護者や地域住民とどのように交流を図っているのか。

○F者 現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため行っていない。

○委員 人員配置について、現場責任者の異動の間隔はどの程度か。

○F者 一つの基準として3年から5年と考えている。責任者が異動し、別の者が責任者に昇格することでその者のモチベーションを上げることにもつながる。

○委員 衛生マニュアルは数多くあるが、調理員への周知方法はどのようにするのか。

○F者 現場にマニュアルを設置し、定期的に衛生講習会を開いている。

○委員 業務責任者にも定期的に研修を受けさせるとのことだが、給食提供中は業務時間内に行うのは難しく思う。勤務時間外に行うのか。

○F者 コロナ禍前は月例で研修しており、業務時間外に行っていた。

○委員 今までF者で事故が起こったとき、どのような対応をとってきたのか。

○F者 ヒヤリハットを含め、事例をデータ化し、内容を周知している。基本的に関西地域での共有であるが、周知すべき事例の場合は全国で共有している。

○委員 アレルギー除去食について、専任制とするのか。

○F者 全従業員がローテーションを組んで取り組む。



○G者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

○委員 現受託校を引き続き受託をする場合、現在働いている調理員を継続配置するのか。

○G者 調理員を継続配置する。

○委員 新規受託希望校の提案書では、8人を新規採用することだが、どのように研修を進めていくのか。

○G者 提案が採用され次第、募集を始め、研修を早期に行いたい。また、吹田市での調理経験を有するものを採用し、配属させたい。

○委員 現受託校の業務時間は5.5時間であるのに対し、新規受託校の勤務時間が5時間となっている。差異があることの説明を求める。

○G者 昨今の調理員の時給が高騰していることがあり、今後は5時間を軸にする。

○委員 人員配置について、現場責任者の異動の間隔はどの程度か。

○G者 責任者については一契約期間は同一の者とする。副責任者や次期副責任者候補については、1学期ごとや1年ごとでの異動を考えている。

○副委員長 例年は5,000万円以上の利益を生み出していたが、2020年の損益計算書の営業利益が126万円の赤字になっている。説明を求める。

○G者 弊社は産業部門、学校給食部門、福祉部門の三部門を統合して決算している。去年は産業部門がコロナ禍のため、大きな赤字を計上し、全体でも赤字となっている。

○委員 保護者や地域住民とどのように交流を図っているのか。

○G者 試食会の開催やスライドを用いた調理工程の発表を行った。

○委員 アレルギー除去食について、専任制とするのか。

○G者 栄養士が責任を持って管理し、順番にローテーションで対応する。

○委員 月に一度の学校巡回では具体的にどのような事を行うのか。

○G者 チェックリストを用いた巡回をする。また、長期休業期間を利用し、従事者に対しては、年に3回ほど講習を実施する。

○委員 今までG者で事故が起こったとき、どのような対応をとってきたのか。

○G者 事故の事例をミーティングやテスト形式で共有する。一人一人に考えさせる機会を設けることが重要だと考えている。

○H者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

○委員 新規受託希望校の提案書では9人新規採用することだが、具体的な研修予定は現段階で決まっているか。

○H者 新規校に配属する前に1か月間他校で業務経験を積ませる。受託当初は慣れないため運用が厳しいことが想定されるので、指導員を当面配置する。

○委員 保護者や地域住民とどのように交流を図っているのか。

○H者 運動会の時に、給食調理員としてお茶を提供する等の手伝いをしている。また、自治体に提供している給食だよりなどで季節のレシピなどを紹介している。

○副委員長 2020年貸借対照表の流動資産に記載されている短期貸付金が約30億円とある。貸付先の説明を求める。

○H者 グループ会社が一括して余剰資金管理をしており、帳簿上、貸付となる。

○委員 衛生マニュアルは数多くあるが、調理員への周知方法はどのようなのか。

○H者 夏と冬に分けて衛生研修指導を行っている。マニュアルを現場に配布し、業務責任者が毎月テストをして理解度を測っている。

(採点表集計及び集計結果発表)

○事務局 各委員の採点を一覧表示する。各自採点に誤りがないか確認をお願いする。

(誤りなしと確認)

全者とも各委員の合計点数が360点を上回っているため、採択の対象となる。集計結果

では、1位と順位付けした委員数が最も多い事業者は、H者であるため全体を通しての最優秀提案者は、H者である。H者の希望調査表では2校受託希望しており、希望校である北山田小学校及び吹田南小学校の最優秀提案者となる。次に、豊津第一小学校を希望しているのはF者のみ、千里たけみ小学校を希望しているのはG者のみであり、それぞれの学校の最優秀提案者となる。

○**委員長** 選定結果について事務局の説明のとおり決定してよいか。

(「異議なし」と呼ぶものあり)

それではH者を北山田小学校及び吹田南小学校、F者を豊津第一小学校、G者を千里たけみ小学校の最優秀提案者と決定する。

○**事務局** 選定結果に基づいて、各校の最優秀提案者に対して契約事務を進めていく。

○**委員長** 議事が終了したので、これをもって第2回吹田市小学校給食調理等業務委託事業者選定委員会を終了する。